

造影剤使用に関する説明書

1. 造影剤とは

病気の存在や状態がより詳しく正確に描出され、診断能を高めてくれるのに役立ちます。通常、腕の静脈より注入します。腎臓の機能が正常な方であれば、注射後6時間で約90%が腎臓から尿として排出されます。

2. 造影剤の副作用と危険性

造影剤の改良によって副作用は減少してきましたが、副作用・危険性を完全になくすことはできません。

* 以下の既往がある方は造影剤による副作用が生じる頻度が高く、症状が強く出る可能性があります。

- 今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことがある方
- 気管支喘息、薬剤過敏症、じんましんなどのアレルギー性疾患のある方
- 腎機能障害のある方、人工透析をされている方

CT・尿路造影などで使用するヨード造影剤の副作用とその頻度

副作用の頻度	発現率	症状
軽症	100人に3人(約3%)	吐き気、嘔吐、かゆみ、じんましん、動悸、めまい、くしゃみ、熱感など
重症	2.5万人に1人(約0.004%)	血圧の低下、呼吸困難、意識消失、心停止、腎不全など
死亡	40万人に1人(約0.00025%)	

MRIで使用するガドリニウム造影剤の副作用とその頻度

一般にヨード造影剤より副作用は少ないとされていますが、重篤な副作用は1.9万人に1人(約0.0052%)、死亡率は83万人に1人(約0.00012%)と報告されています。ヨード造影剤にみられない副作用として腎性全身性繊維症(NSF)の報告があります。NSFとは重い腎機能障害の方に多く発症する進行性の疾患で、死亡率20~30%と推定されています。

遅発性副作用 100人に5人(約5%)の頻度で1時間から1週間の間に、下記の症状を起こすことがあります。

- ・かゆみ ・じんましん ・顔がはれる ・吐き気 ・嘔吐 ・のどの違和感 ・腹痛 ・下痢 ・動悸
- ・めまい ・息苦しさ ・尿がでない ・声がかすれる ・咳が続く ・くしゃみ ・身体のだるさが続く

3. 血管外漏出(注射漏れ)について

造影剤の注入に関しては細心の注意をもって実施していますが、まれに血管外漏出(注射漏れ)がおり、注射部がはれて痛みを伴うことがあります。検査によっては造影剤を急速に注入する必要があり、発生確認時にはかなりの量が漏れていることがあります。通常は時間がたてば自然に吸収されますが、漏れた量によっては別に処置が必要となることもあります。

4. 副作用発生時及び緊急時の対応について

副作用が発生した場合には適切に処置を行います。予期せぬ事態に対しても主治医が最善の対処を致します。検査終了後数時間から数日後、先に述べたような症状、何か違和感がありましたら主治医または看護師まで連絡ください。また検査方法について不明な点や心配なことがありましたら、いつでも主治医に相談ください。

岩手県立一戸病院

〒028-5312 岩手県二戸郡一戸町一戸字砂森60-1

☎ (0195)33-3101